



## 第43回Callerlab convention Norfolk大会

ノーフォークはバージニア州チェサピーク湾の湾口都市として世界最大の海軍基地を有しアメリカ合衆国統合戦力軍、艦隊総軍、海兵隊総軍他の司令部を置く海軍の街で人口は約24万人、大会会場のシェラトンホテル傍に太平洋戦争時の排水量45,000トンの戦艦ウイスコンシンが博物館として公開されている。また数ブロック先には、ここ出身のマッカーサー元帥博物館があり多くの遺品が展示され彼の偉業を称えている。

さて、今回のコーラーラブ大会（以下CCと略す）は組織交流と活性化の点から、International Advisory Committee以外にも私どもS協、USDA、ECTA、全米及び西部コンベンション企画委員会、ARTS、BAASDCなど、種々のタイプの組織の代表を招待しVernon Jones会長が自ら座長を務めたPlanning Meetingに中川氏、平賀氏も出席したことが特徴的だった。

正にこのCCは「国際コーラーズ協会」としてアメリカSD界をはじめ世界で最も中心的リーダーシップを継続している団体といえる。

多くの読者には馴染みがないと思うが記録としてこの大会を支えてきた日本でも知られていると思う人々を掲載しておきたい。（敬称略順不同にて）

Mike Seastrom, Mike Sykorski, Tim Marriner, Tim Crawford, John Marshal, Jerry Story, Jerry Jestin, Buddy Weaver, Tom Miller, Bill Harrison, Barry and Pam Clasper, Ed Foote, Ken Ritucci, Don Beck, Mike Hogan, Bill Ackerman, Bill Boyd, Bob Poyner, Al Stevens, Lee Kopman, Clark Baker, Miheal Maltenfort, Eric Henerlau, Scott Bennett, Bear miller, Dave Eno, 女性ではBetsy Gotta, Dottie Welch, Patty Greene, Deborah-Carroll Jones, Jeanette Steauble, 他多数。

事務局はDana and Donna Schirmer専務理事, Jerry Reed元専務理事, Royce Dent, Cindy Hollinberger事務局員, そしてレジェンドのMarshal Flippo, Melton Luttrell, Jim Mayo, Jon Jones, Bill Heyman. ※今回欠席の人 Elmer Sheffield, Tony Oxendine, Wade Driver, Randy Dougherty, Bob Worley, Hunter Keller の各氏。

まだまだという観方もあるがMS系コーラーとC系コーラーは部分部分では、上手く助け合い意気投合しているように感じた。

## ◎43回大会の現況

年々参加者数が減少してきている。去年のスプリングフィールド大会は約330名、今年は250名。ナショナルコンベンションと比例して減少傾向、これには高齢化や開催地も影響があると思う、日本も同じ問題を抱えている。

※定義委員会では色々な隊形からのTrade byの検証がテーマだった。この経緯として「MS定義書き換えプロジェクト」でTrade byの検討を始めた昨年7月8月のオープン討議でCenters Pass Thru, Ends Tradeという定義があまりにも単純なためこの定義だけが独り歩きすると非常に危険であることがわかり（チャレンジでも使ってはいけないような応用案もでてきた）これらを防ぐためにNorfolk大会で一度オープン討議を持ち危険な領域を委員会参加者で確認することになった。

Partner Tradeの解釈とPass Thruのできる隊形（右手のミニウエイブを含め）を拡大して考えると応用は非常に多いという検証も有意義だった。

討議された隊形は多岐にわたり紙面の関係でまたの機会としたい。この他のARC委員会、プラス委員会での興味深い討議内容も公認指導者研修会や支部研修会の機会に譲りたい。

さて、技術標準化に関するMS・PLUS・AD・C委員会と定義委員会の事前調整は重要であり、特に今回のEX-TENDの課題は多くの人が注目し考えていたはずだが、MS委員会では全く話がはず、定義委員会では課題として挙がっていたものの結局時間がなく見送り、という状況だった。

※EXTENDのスタート隊形撤廃ではもっと事前にMS委と定義委で事前調整が必要だったと思う。

終わりにInternational Advisory Committee（国際報告助言会議）で日本ではS協の掲げる「スクエアダンス10万人体験者運動」の紹介と「学校ジュニアへの普及活動」を推進してSD人口増に努めていることを報告した。

（文責 奥村稔明）

